

社員選挙 立候補者届出状況

受付番号	氏名	所属	立候補所信
1	中江 大	東京農業大学 応用生物科学部	機会を与えていただければ経験と専門性を活かして、一般財団レギュラトリーサイエンス学会の活動に貢献したいと思います。
2	田邊 思帆里	国立医薬品食品衛生研究所	レギュラトリーサイエンスの発展に向けて多方面から尽力したいと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。
3	西村 多美子	就実大学 薬学部 薬理学教室	医療薬学系の大学院(4年制)で、3名の博士課程学生を指導する他、研究室配属の学部学生の内レギュラトリーサイエンス研究を希望する学生の指導を行っている。これらの院生、学生にレギュラトリーサイエンス学会に入会してもらい、学会活動に貢献している。
4	永井 良三	自治医科大学	なし
5	松村 一	東京医科大学病院 形成外科学分野	臨床医師・アカデミアの一員として、本邦でのレギュラトリーサイエンスの発展に寄与したいと考えています。よろしくお願い致します。
6	東阪 和馬	大阪大学大学院薬学研究科	なし
7	今村 攻	国立ナミビア大学医学部 病理学講座	現在、海外の国立ナミビア大学医学部おりますが、アフリカにおきましても、レギュラトリーサイエンスは、重要な課題になっております。そこで、日本のレギュラトリーサイエンス学会の先生方のご指導ご鞭撻を頂きながら、ナミビア大学医学部そして、薬学部とも連携して、レギュラトリーサイエンスの普及に力を注ぎたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。
8	永井 純正	東京大学医科学研究所	PMDA在職中から現在も抗癌剤とコンパニオン診断薬の薬事規制に携わっており、特に血液・腫瘍内科を専門としております。これまで学術大会での講演や一般演題発表で本学会に寄与してまいりましたが、薬事規制とアカデミアにおけるTRに精通する臨床医として、本学会のさらなる発展のために貢献していく所存です。
9	野元 正弘	愛媛大学医学部臨床薬理学講座	なし
10	赤座 英之	東京大学大学院 情報学環・学際情報学部	Academicな立場から情報発信してゆきたいと思えます。

社員選挙 立候補者届出状況

受付番号	氏名	所属	立候補所信
11	東宮 秀夫	大日本住友製薬株式会社	製薬企業で医薬品開発業務に従事する者の立場から、レギュラトリーサイエンスの発展に微力ながら貢献できればと考えております。
12	有賀 淳	東京女子医科大学先端生命医学研究所	東京女子医科大学・早稲田大学共同大学院にてレギュラトリーサイエンス研究を実施しております。再生医療・細胞治療・癌免疫療法におけるレギュラトリーサイエンス研究の推進と学会の発展に寄与したい所存です。
13	桐野 豊	徳島文理大学	大学におけるレギュラトリーサイエンスの教育と研究の推進に貢献したいと思っております。
14	戸高 浩司	九州大学 ARO次世代医療センター	循環器臨床医、基礎研究者、PMDA審査官OBとして新薬・医療機器開発の豊富な経験を生かしてレギュラトリーサイエンス研究を実践、後進の指導にあたっています。橋渡し拠点・医療法臨床研究中核病院である九州大学ARO次世代医療センター副センター長としてアカデミア発シーズ、repositioning企業シーズを実用化しています。社会と調和する斬新な規制科学手法の開発等、本学会の発展に寄与する所存です。
15	石井 明子	国立医薬品食品衛生研究所	国立衛研にて、バイオ医薬品に関するレギュラトリーサイエンス研究に従事しております。科学技術の成果を医薬品として結実させ、社会に迅速かつ的確に還元するため、産官学の連携のもと、レギュラトリーサイエンスに関する学術の進歩と普及を図ることは、非常に重要な課題であると考えます。レギュラトリーサイエンス研究の中核をなす本学会の活動に微力ながら協力させて頂くことで、社会にも貢献したいと考えております。
16	斎藤 嘉朗	国立医薬品食品衛生研究所 医薬安全科	国立衛研入所時に、当時の内山副所長より、レギュラトリーサイエンスの哲学を教示いただきました。現在、学会誌の編集委員を務めております。医薬品の副作用、民族差、バイオマーカー等に関し、ウェットとドライの両面から研究を行っておりますが、本学会の方向性としてもこの両面の融合が必要と考えます。また産学官の意見交換の場として本学会は重要です。本学会の興隆に微力ながら貢献致したく、立候補させていただきます。
17	成川 衛	北里大学大学院薬学研究科 医薬開発学	レギュラトリーサイエンスに関する研究・教育・推進と当学会の活動の活性化に努力します。
18	久津見 弘	滋賀医科大学 臨床研究開発センター	20年以上消化器内科医として臨床ならびに医療機器開発に携わった後、臨床担当スペシャリストとしてPMDAで医療機器ならびに医薬品の審査等を2010年から2年余り経験した。2015年から、臨床研究のガバナンス強化をする立場で業務をしている。この経験を活かし本学会のために尽力するとともに、医師の本学会会員を増やしていきたい。

社員選挙 立候補者届出状況

受付番号	氏名	所属	立候補所信
19	山根 隆志	神戸大学大学院 工学研究科 機械工学専攻	産業技術総合研究所における人工心臓をはじめとする医療機器の技術開発経験と、医薬品医療機器総合機構における医療機器審査経験、また神戸大学工学研究科における医療機器に関する人材教育経験を生かし、実用化をめざす医療機器の研究開発とレギュラトリーサイエンス構築をライフワークとして、学会における人材育成、産業支援に尽力したいと思います。
20	川西 徹	国立医薬品食品衛生研究所	医薬品・医療機器・再生医療等製品について、安全性を確保しつつ早期の臨床応用の実現、およびライフサイクルにわたっての適切なマネジメントに結びつくレギュラトリーサイエンスに参画したいと思います。
21	荒川 義弘	筑波大学 つくば臨床医学研究開発機構	なし
22	渡邊 伸一	帝京平成大学 薬学部	なし
23	橋田 充	京都大学大学院薬学研究科	レギュラトリーサイエンスの発展に微力を尽くしたいと思います。
24	中村 哲也	群馬大学医学部附属病院	レギュラトリーサイエンスの普及と発展に学会を通じて貢献して参る所存です。この分野のますますの発展が広く求められてると考えております。
25	菅谷 勉	ノーベルファーマ株式会社	2期目の立候補ですが、社会科学的見地から、医療経済やHTA等の今日的課題について、引き続きRS学会の発展にお役に立ちたいと思います。
26	寺西 成信	メディテック・エンジニアリング株式会社	なし
27	松田 勉	興和株式会社	なし
28	梅津 光生	早稲田大学理工学術院	補助人工心臓の開発者としてFirst in Human2回経験しました。その時の辛さ、および経験を何とか学問としてまとめれば次世代の医療機器開発に極めて有効と考え、本学会においてアカデミックな面からの貢献をしたいと強く思っております。また、女子医大・早大の共同大学院において、我国で最初に文化省が認可をした医療レギュラトリーサイエンスをメインテーマとする専攻ができ、私はその初代専攻長を務めております。開設以来7年目までの博士の定員充足率は100%以上、博士授与数30件という状況であり、この分野の発展に寄与する所存です。

社員選挙 立候補者届出状況

受付番号	氏名	所属	立候補所信
29	岩崎 清隆	早稲田大学理工学術院	研究面では、先進的医療機器の迅速承認と市販後のリスクマネジメントに寄与する先進的非臨床試験法の開発に引き続き取り組み、医療機器の開発促進に貢献していきたい。教育面では、東京女子医科大学と早稲田大学のレギュラトリーサイエンスを研究分野とした博士課程の共同大学院において、産官学の人材育成に注力している。本学会の先生方、関係諸氏とともにレギュラトリーサイエンスの学問の発展と社会実装に貢献していきたい。
30	須崎 正和	大日本住友製薬株式会社	なし
31	岡崎 義光	独立行政法人産業技術総合研究所	オールジャパンでの医療機器開発が産業政策の一つに挙げられ、我が国の医療機器産業の進展を目指して、科学的な根拠に基づく評価技術の研究に取り組んでおります。医療機器開発・薬事製造承認申請の迅速化・効率化の観点で努力いたしますので、どうかよろしく願い致します。
32	細木 るみこ	独立行政法人医薬品医療機器総合機構	なし
33	望月 修一	国立国際医療研究センター 臨床研究センター	これまで人工心臓の開発の基礎研究開発から、工学部で医工学教育、公衆衛生医を経てPMDAで医療機器審査に携わった後、国立国際医療研究センター臨床研究センターで臨床支援を行い、現職では企業対象に出口を見据えた医療機器設計開発人材の養成を行って参りました。「患者さんにとっていいことかどうか？」礎に、レギュラトリーサイエンスの推進に少しでもお役に立てればと考えております。よろしくお願い申し上げます。
34	位田 隆一	国立大学法人 滋賀大学	なし
35	渡邊 裕司	国立大学法人 浜松医科大学	なし
36	藤原 康弘	国立がん研究センター	政府のゲノム医療実現促進協議会により、ゲノム医療実現の方向性が昨年7月の「中間とりまとめ」で示され、わが国全体がそれに沿って動きは始めている。そんな中、レギュラトリーサイエンスの果たす役割は大きい。届出者は、医薬品医療機器審査センターでの審査経験、内閣官房医療イノベーション推進室での政策立案経験、腫瘍内科として30年超の経験をもとに、学会活動を通じて、レギュラトリーサイエンスの振興に貢献したい。